

# 本書の特色と使い方

- 漢字は、「新学習指導要領」学年別漢字配当表に従って、学年ごとに五十音に並べました。
- 本書は、漢字の成り立ちが一目で分かるように、絵から漢字への変化をくわしく示しました。
- 漢字の意味が、成り立ちとの関連から自然と理解できるように工夫しました。
- 漢字の派生意義も、本義と関連して解き、なるほどと理解できるように工夫しました。
- その漢字の理解に役立つ他の漢字がすぐに調べられるように、そのページを示しました。
- 本書は、辞典として使用するほか、漢字を学習するのに極めて有効です。最初のページから、読み物を読むように続けて読んで下さい。
- 気の向いた時に、気の向いたページを、気の向くままに読むのもよろしい。

1字1ページで見やすくしています。できるだけルビをつけ、分かりやすくしています。余白のあるページは〈くらしゅう〉など、自由に使えるようにしています。先生が指導するときのワンポイント・アドバイスも〔 〕に工夫しています。

見出し漢字  
当該漢字をならう学年  
画数・筆順・音読みと訓読み  
成り立ちの変化を絵解きで工夫し、最後に教科書体で表示  
参照頁  
用例  
各学年を表記  
当該漢字を用いた使い方を明示  
当該漢字を使った短文や長文の例  
音読みはカタカナ・訓読みはひらがなで表記

# 漢 字 の 成 り 立 て

## りくしよ

【六書】 漢字の成立と使用についての六種の別。象形・指事・会意・形声（諧声とも言いいます）・転注・仮借。

## しょうけい

【象形】 物の形にかたどること。「山」「日」のように有形物の形をかたどった字。

## しじ

【指事】 漢字の六書の一つ。目で見ることのできない抽象的な概念を線や点であらわしたものの。例「上」「下」など。また、象形文字に、線や点を加えてあらわすものもあります。例「本」「木」など。

## かいい

【会意】 二つ以上の漢字を合わせて一つの字を作り、その意味を合成する漢字の構成法。「日」と「月」とを合わせて「明」とする類。

## けいせい

【形声】 意味を表す部分と音を表す部分とを組み合わせて、文字を作る方法。諧声。例「江」「氷」(水の意)、「工」(音を示す)

## てんちゆう

【転注】 ある漢字の意味を他の意味に転用すること。▽意味転用につれて、音の変わる場合もあります。「アク」(かわるい) (例「悪人」を表す「悪」の字を「ヲ」(にくむ) (例「嫌悪」を表すのに転用します)。

## かしや

【仮借】 音だけあって文字のない言葉を書くのに、同じ音の別の意味の字を借りてあてたもの。肉を盛るうつつわの「豆(とう)」「を」まめ」の意に用いる類。